

## 障害者支援施設 白兔はまなす園

### 1 基本方針

すべての利用者の人権と尊厳を守り、自立した生活を地域社会で営むことを基本とし、地域移行の促進と就労支援を強化する。

また、生産（就労）活動を通じ社会の一員としての役割を担い「自信と誇りを持って暮らせる」よう支援する。

さらに、入所施設としての機能を生かし「地域生活を支える拠点」として、障がい者の地域生活を支える。

### 2 利用者の状況（令和4年3月31日現在）

#### (1) 入所者状況

(人)

利用人数		前年度末利用者数	令和3年度中の入退所状況										利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別											
					地域移行		家庭復帰	施設移管	死亡	就職	サービス変更	他				
		GH	アパ-ト等													
継続B型	50	41	1	4	0	0	0	1	0	0	0	1	2	10,217	80.0%	38
生活介護	24	28	1	3	0	0	0	1	1	0	0	0	1	5,727	98.2%	26
施設入所	35	32	0	4	1	0	0	1	1	0	0	0	1	8,888	73.3%	28
2年度	継続B型	50	49	0	8	0	0	0	5	0	1	2	0	10,565	89.2%	41
	生活介護	24	26	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	6,216	109.3%	28
	施設入所	35	34	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	11,612	90.9%	32

#### (2) 障害支援区分

##### ①就労継続B型

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	2	1	8	10	4	1	0	26
女性	6	0	1	4	1	0	0	12
計	8	1	9	14	5	1	0	38

##### ②生活介護

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	2	5	4	2	0	13
女性	0	0	1	5	7	0	0	13
計	0	0	3	10	11	2	0	26

##### ③施設入所支援

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	1	1	7	5	3	0	17
女性	0	0	2	4	5	0	0	11
計	0	1	3	11	10	3	0	28

### 3 事業の実施状況

#### (1) 改築に向けた日中活動体制の見直し、および生産活動の効率化の促進

ア 事務局を交えた定例の改築検討会と、新あさひ園建設行程会議で検討を継続した。

生活介護事業の拠点変更とレイアウト・支援体制を再構築した。また、あさひ園の施設外就労と白兔はまなす園の園外班の再編と、利用者の配置を検討した。

イ 生活介護サービスの充実を図り、就労継続支援B型利用者の高齢化等に伴い、個々のニー

ズを把握し生活介護への移行を推進したが、就労継続支援B型の利用を継続する利用者が多く、生活介護への移行は数名にとどまった。

ウ 就労継続支援B型事業においては、あさひ園と連携し、運搬車両の共有や利用者の他作業班の体験利用を取り入れた。

また、主査会・職員会議において経費や稼働率の情報共有を行い経営意識を高めた。

エ 生産活動を活発化させ収入アップを目指しながら、個々の障がい特性に配慮し、利用者本人の能力と働く意欲を尊重した作業の提供や支援を行った。

目標平均工賃15,000円以上を目指し、結果約18,000円と目標を上回った。

## (2) 個々のニーズに即した個別支援の質の向上

ア アセスメント、モニタリングを充実させ、本人や家族のニーズを把握し、ケア会議を行った。個別支援計画に基づいた支援に取り組み、目標達成に努めた。

イ 生活介護の日中活動については、生産活動以外に、口腔体操やミュージックケアを取り入れながら、日課にメリハリをつけ、充実した時間を目指した。

アート活動にも力を入れ、個展を開催した。また、あいサポート・アート鳥取展にも多数出品し、2点の作品が審査員特別賞を受賞した。

日中入浴にも力を入れ、新施設での生活介護事業拡充準備を行った。

ウ 嘱託医・関係医療機関と連携して各種がん検診・定期健康診断を実施し、早期発見・早期治療を行った。

日々の健康観察を密に行い、体調把握に努め、健康維持・増進に努めた。

新型コロナウイルス感染症対策で3回のワクチン接種を行った。

エ サービス向上委員会を中心にして、利用者アンケートや保護者向けの満足度アンケートを行った。回答内容を検証しサービス向上に取り組んだ。

オ 外部アドバイザーを招いての支援内容検討会は行わなかったが、アドバイスや積み上げたデータの分析を行い、障がい特性を理解した支援へつなげられるよう情報の共有を行った。

また、障がい特性に応じた支援のための専門研修を積極的に受講した。

カ 個人研修計画をもとに、希望に添った研修に参加できるよう配慮した。

コロナ禍においては、オンライン研修がほとんどであり時間節約や効率面を重視し積極的に研修参加に取り組んだ。

全職員受講の園内研修には力を入れ、職員のスキルアップと利用者サービスの向上に繋がった。また、権利擁護・虐待防止に関する研修に積極的に参加した。

園内においては、虐待防止チェックシートや接遇アンケートを実施し、職員会で改善策を検討した。第三者委員同席の虐待防止検討委員会・苦情解決検討委員会を開催し、意見を受けての支援の質の向上を目指した。

## (3) 経営の効率化

ア 職員会議・主査会において、予算執行状況や作業収入・稼働率・中長期計画などの説明を行い、職員が経営意識を持つことが出来るよう情報提供を行った。

イ 自主生産部門の新商品開発は活発に行い、新たな人気商品も生まれた。コロナ禍において外販が制限される中で、特にファミリーマート4店舗への安定的な納品で収入の安定を確保した。また、その他の販売先でも売上が増加していることが収入増の要因となった。

ウ Instagram (インスタグラム) のアカウントを開設し、Facebook (フェイスブック) と連携し、菓子工房はまなすの商品の情報やイベント情報を発信し、販売促進・店舗のPRに加え、新規利用者獲得を図るとともに関係機関等へ情報提供を行った。

稼働率：生活介護98.2% (目標100%)、就労継続B型80% (目標81%)

施設入所73.3% (目標84%)、短期入所0% (目標5%)

## (4) 地域貢献、地域共生社会に向けた取り組み

ア 昨年度と同様、恒例の「夏祭りinはまなす」、「クリスマスinはまなす」などはコロナ禍において地域の方々やボランティアの方々に参加していただくことができなかったが、地域住民から畑を借用しての野菜作り、地域公民館の利用等、地域福祉を支える基幹としての役割を担った。

イ 地域に機関誌、年間行事等を配布し、情報発信を行い白兔はまなす園の事業内容や活動の様子をお知らせした。コロナ禍により地区運動会は中止された。

ウ 「きれいにし隊」を組織し、年2回地域内周辺主要道路やJR末恒駅周辺の清掃を行った。

エ 地元小学校の地域探検隊受入れを行う等、公益的な活動に寄与した。小学校等の施設見学を積極的に受け入れ、福祉教育の推進の一端を担った。

#### 4 実習、ボランティアの受入状況

##### (1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
社会福祉士実習	5月、6月	2人	5人
計		2人	5人

##### (2) ボランティアの受入実績

実績なし

#### 5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 2名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	0	0	0	0
日中一時支援事業	0	0	0	0

#### 6 就労支援事業の実績

作業班	3年度目標額	実績額	達成率	作業の内容
菓子作業班	12,350,000円	15,151,832円	122.7%	菓子の製造販売
園外作業班	4,750,000円	5,092,046円	107.2%	福祉施設の除草、墓石清掃等
受託作業班	4,900,000円	4,637,116円	94.6%	ペットフードの袋詰め等
計	22,000,000円	24,880,994円	113.1%	